

地域活動指導員等研修会

地域活動指導員や体験活動の指導者等を対象に、講話・演習・講義を通して、事業の効果的な企画・立案の仕方についての知識・理解を深めるとともに、様々な子どもたちの立場に立った接し方のできる豊かな人権感覚を身につけ、今後の実践に活かすことができるようにする。

研修1 <講話・演習>

「『桃太郎』から学ぶ企画・立案」

特定非営利活動法人KID's work 代表理事 大久保 大助 氏

大久保氏の講話では、昔話「桃太郎」のストーリーに沿った、企画・立案の仕方について御指導をいただきました。御存知の通り、「桃太郎」は、主人公・桃太郎が、近隣の村人を苦しめる鬼を、犬、猿、雉と協力して退治します。そして、姫を助け、宝を持ち帰り、幸せに暮らす話です。この「桃太郎」のストーリーに、参加者の事業の企画書を当てはめます。すると、企画の「課題・目標・準備・活動内容」等が明確になりました。



【昔話「桃太郎」のストーリーに、自分たちの事業企画書を当てはめる】

- 悪さをする鬼・村の人々が困っている(課題:どのような地域課題・社会課題があるのか)
- 鬼退治を決意(目標:成果目標と結果目標の設定)
- おじいさん、おばあさんの協力を得て、鬼退治の準備をする。
(準備:目標達成のための準備と、協力団体との協働)
- きびだんごで、犬、猿、雉を仲間にする。船を手に入れる。仲間の長所を生かした作戦立案。
(活動内容:目標達成のため地域の「ひと・もの・こと」の有効的な活用)
- 鬼を退治する。(成果目標の達成=地域課題・社会課題の克服)
- 姫を助け、宝を持って帰り幸せに暮らす。(結果目標の達成=成果目標の達成後に得られるもの)

演習では、講話での「桃太郎」をもとに学びを生かし、「課題・目標・準備・活動内容」等を明確にし、実際に自分の事業の企画書を作成しました。

さらに、先生が作成した「だめ出し用企画書」をもとに、審査する側(企画を承認する上司や経理など)の視点に立って考えることが大切であることを学ぶことができました。

講話・演習を通して、効果的な企画・立案の仕方について知識・理解を深め、これからの実践に向けて意欲を高めることができました。

研修2 <講義>

「子どもの人権を守るための視点について」

筑豊教育事務所人権・同和教育室 社会教育主事 東田 孝之

研修2では、地域活動指導員として、企画・立案の際や実際に子どもたちと活動する際に、大切にしたい子どもの人権を守るための視点について講義を行いました。講義は、「子どもの権利条約」や「こども基本法」の内容を中心に考えるものでした。参加者は、企画・立案の際は、「どの子どもも参加できるものか」「安全・安心が担保されているか」「必要な支援が考えられているか」という視点を意識することが大切であると理解を深めることができました。

また、子どもたちと活動する際は、「子どもにも大人と同じように、様々な権利を認めること」が大切であることを理解し、様々な子どもたちの立場に立った接し方について学びを深めることができていました。



研修後のアンケート(一部抜粋)

- 「事業の組み立て方が明確になり、早速実践したい。」
- 「私たちの取り組みでは、地域の課題、背景をしっかりと捉えたものに思いました。」
- 「イベント等を企画する際に、「子ども」だからではなく「一人の人間」としてみることを大切にしたい。」